



海禅寺新聞『第26号』

毎年この夏号では夏の暑さを話題にしていますが、今年は長雨に新型コロナウイルス感染症と、例年にならない夏となっております。皆さまいかがお過ごしでしょうか。菩提寺として、これまでと変わらず各家のご先祖を供養し続けると共に、皆さまが息災でこの期間を過ごせますよう、至心にお祈りしております。

それにつけても、新型コロナウイルス感染症の拡大は、様々な場面で私たちがこれまで「当たり前」だと思っていた様々を見直す絶好の機会ともなっているように感じています。今のコロナ禍は、不便が多いことに間違いはありませんが、これをチャンスとして日常のあれこれを違った角度から見つめると、新しい気付きがあるかもしれない。例えば、遠くに出かけなくともお住まいの街や近所を散策することで、新鮮な発見に恵まれることもあるでしょう。また毎日の一見すると些細な生活の一つ一つを丁寧に行うことも、こうした時だからこそできることではないかと思えます。

生きる力・101号』送付

真言宗智山派が発行する、檀信徒の皆さまの情報誌「生きる力」を同封しました。



今回の特集は『願いを叶える祈り 亡き人を弔う祈り』と『廻向』の心で仏さまとつながる』です。仏教の伝統に則って亡き人をお弔いすることの意味と、祈りを通じて自分自身を見つめていく営み。そこに仏教が説く教えの大切な確信があります。ぜひ他の記事と合わせてご一読ください。

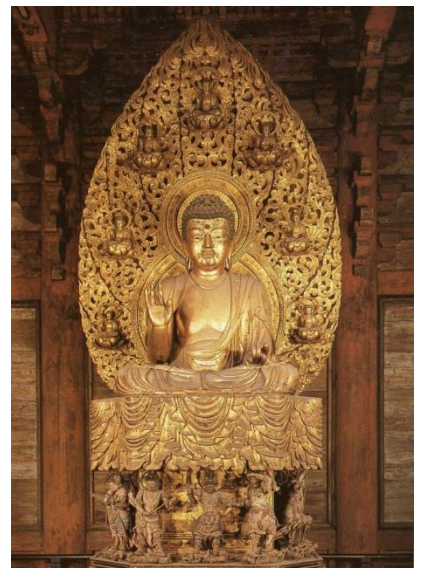
施餓鬼会と特別護符のご案内

恒例の施餓鬼会法要ですが、今年は別紙のような内容で行います。どうぞ内容をご確認の上、参加の仕方をご検討ください。

日程…令和2年8月12日(月)
時間…10時30分 諸報告
10時40分 ミニ法話「命を感じる」
11時 施餓鬼法要
11時40分 お塔婆・護符授与

※海禅寺墓地にて、塔婆立てが古いお塔婆でいっぱいになっております場合は、それぞれの墓地脇に塔婆を寝かせ、積み置いてください。境内外墓ご利用のお檀家さんの古いお塔婆も、寺にご持参いただければお焚き上げし、読経供養いたします。(なるべくお盆中にお持ちいただければ幸いです)

またこのコロナ禍において、皆さまの生活が安寧であるための一助として、この度、真田家祈願所である海禅寺独自の「疫病退散の護符」を授与いたします。薬師如来を本尊として供養法をお勤めし、一心に祈願してお魂入れした護符です。薬師如来(正式名称・薬師瑠璃光如来)とは、世間における人々の疾病を治癒し、災禍を消去する仏さまです。



参考：薬師如来座像(京都 東寺)

護符は施餓鬼法要以後よりご希望の方に各家一体をお授けしますので、返信ハガキ空欄にその旨をご記入ください。

護符安置の仕方につきましてはありません。お仏壇の中に安置したり玄関先に貼ったりしてもよいでしょう。皆さまが少しでも心穏やかに、コロナ禍という時代の変革期をお過ごしになれますように。

副住職の気まぐれ法話



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐ対策として、①「密閉」(換気の悪い密閉空間)、②「密集」(多数が集まる密集場所)、③「密接」(間近で会話や発声をする密接場所)を避けるべきとする「3密」が呼びかけられています。

ところで実は真言宗では古くから「三密」という言葉を大切に使用していることをご存じでしょうか?他にも天台宗・修験道など、いわゆる密教を重んじる仏教宗派で使用しています。仏教では私たちの活動を、身体の働き(身)、言葉の働き(口)、心の働き(意)の三つに分類し、これを「身口意(しんくい)」と呼んでいます。また真言宗では、根本の仏さまとしている大日如来とは、大自然・大宇宙そのものであると捉えています。そして私たち一人一人も

この大自然の一部であるのだから、自分の身体の働き、言葉の働き、心の働きに祈りを通じて研ぎ澄ませていけば大自然・大宇宙と共鳴し合い、自分自身が仏と他ならない体感を得られるとされています。その為の方法(修行)が様々に確立されていますが、その際の「身口意」を「三密」と言います。

これだけ聞くと、何だか難しそうだなとお感じになるかもしれません。しかしまずはお考えみてはどうでしょうか。悩みや苦難に負けない健やかな身体を保ち、他者を思いやる言葉使いに配慮し、今自分の命があることを感謝しながら祈りのある生活をする。仏教は例えばキリスト教のように絶対的な神と契約をして、他からの制約を意識しながら生きる他律的な宗教とは違い、あくまで自分で自分を正しながら歩む自律的な生き方を勧める道です。

メディアはたくさんさんの情報を私たちに提供はしてくれるものの、一体何が本当で何を信じればよいのか、時に不安を募らせる種になっていないかと思ってしまうこともあります。時には過剰に不安を煽るテレビのスイッチを意識的に消して、「3密」というリスクを配慮しながらも「三密」を心がけ生きていけたなら、新型コロナウイルス感染症を心配する今の時期は、いつの間にか通過しているかもしれないですね。結びに、「中部教典」の一節をご紹介します。

過去を追うな。未来を願うな。
過去はすでに捨てられた。
未来はまだやってこない。
だから現在のことがらを、
それがあるところにおいて観察し、
揺らぐことなく動ずることなく、
よく見きわめて実践せよ。
ただ今日なすべきことを熱心になせ。

報告 第9回 聖天祭

多くの方達にお支えをいただき、毎年5月の第3日曜日に開催している聖天祭。今年も新型コロナウイルス感染症流行を受けて、左記のようなチラシを作成し、規模を最小限にして開催しました。

いのちを守ろう しよてんまつり ~Vol.9~
聖天祭
令和2年5月17日(日)AM10:00~15:00
今年は聖天堂にて法要を行う以外は、マンガラマーケット、音楽奉納演奏等、すべての催しを取りやめ、来年に持ち越させていただきます。
当日は皆さまの健康安全と、この一大事の一刻も早い沈静化を、祈願法要の中で至心にお祈りいたします。
ご縁花咲く聖天祭。来年は10年目を迎えます。
本年は、ご自分と大切な方々の命を守るため、ご自宅からご参加ください。
来年、皆さんと笑顔で再会できることを楽しみにしております。
※開催時間帯はお堂の外からですが、聖天さんにご参拝はいただけます。
※聖天祭関連の御守りの販売をお堂前でいたします。(御守りの郵送可)
Mail:shuntetsubou@hotmail.com 海禅寺 聖天祭実行委員会



当日は例年から比べれば大変に少ないご参拝の方々ではありましたが、毎年聖天祭の御守りを購入しているというご家族連れがお参りにおいでになったり、学校が休校中という地元の大学生が何人か立ち寄ってくれたり、静かな中に穏やかな祈りの空間が広がっていました。

聖天祭、来年は10回目になります。感染症の危険性が収束していることを祈りながら、節目の回に相応しい祭りになるよう、今から構想を練りながら準備を進めています。どうぞお揃いでご参拝ください。

※次回は令和3年5月16日(日)を予定

海禅寺を会場にお葬式を

前号の海禅寺新聞でご紹介したお寺でのお葬式について、具体的にご案内できる準備が整いました。同封している別紙「お寺で葬儀(おみおくり)のご案内」「Q&A集」「チラシ」をどうぞご覧ください。

【お寺でお葬式を行う3つのよみ】

- ①ご自宅のそばにあるお寺だからこそ、ゆっくりご葬儀ができます。
葬儀でもっとも大変なことのひとつが実は自宅から会場までの移動です。ご自宅のそばにあるお寺だからこそご家族でゆっくりお別れの時間がとれます。(広い駐車場も完備しています)
②ご自身が思ったとおりの予算で安心して計画できます。
お寺には必要な設備がそろっています。過剰な設備等は必要ありません。ですから、余計な費用はかかりません。そして予算内で充実したご葬儀を営むことができます。

③荘厳な本堂で行う葬儀だからこそ心にのこります。

真田家の祈願所であった海禅寺の本堂にて、荘厳さにつつまれながら葬儀という特別な時間の中で、先立つ家族を偲ぶことができます。

もちろん葬祭場でお葬儀を執り行うことを否定しているわけではありません。皆さまの菩提寺として、一つの可能性を提案するものです。どうぞそれぞれののご家庭のご事情の中で、選択肢の一つとして心にお留めいただければ幸いです。何かご質問があたりの方は遠慮無くお寄せください。



新しい永代供養墓

海禅寺の境内墓地に『永代供養墓』を新設することになりました。これまでも歴代住職の墓所近くに永代供養塔はありましたが、その納骨室がいっぱいになりつつある中で、最近、永代供養に関するお問い合わせを多くいただくようになりました。そこで総代世話人会でも協議した結果、新たに永代供養墓を境内墓地内に設ける運びとなりました。

永代供養とは、家族や親族に代わって寺院が遺骨を管理し供養することを言います。つまり遺骨と先祖供養のすべてを寺院に委託するものです。この選択をすることで子孫が墓を継承する必要がないため、身よりのない方やお墓の後継ぎがいられない方が、「無縁仏になりたくない。永代にわたって供養して欲しい。」という思いでお求めになることが多いようです。また最近はいわゆる「終活」の中で、墓じまいの必要性に迫られて検討される方からのご相談もいただきます。

大家族より核家族や単身世帯が増えてくる現代にあつて、時代の変化から生まれた新しい供養の姿とも言えるかと思えます。既に上田市内にも永代供養墓がいくつもあります。できるだけ海禅寺らしいあたたかい雰囲気のある墓所を造りたいと様々な検討をしています。現在スタンドグラス作家の方と相談し、その作品を活用した新しいタイプの墓所をご提案できたらと考えています。合わせて墓地規約等の仕組みも整えていきます。今年年末の完成を目標に計画をしています。次号の海禅寺新聞でより具体的な報告をいたします。

※感染症流行の関連で、資材入手が滞ってしまつた場合は予定が延期される可能性もあります。

副住職 六級昇補

海禅寺が所属する真言宗智山派では、僧侶の等級が全部で十四段階あります。その中で六段階目の「六級」からは、それ以前の「僧都」という呼称から「僧正」という呼称に格上げされ、また紫色の衣を身につけることが許される為、本派においては大きな節目の段階とされています。

今回、所定の学びと修行段階を納め終えた副住職が、この六級(権少僧正)の等級を総本山智積院から拝受しました。この上は、これまで以上に精進を重ねていく所存です。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

限定 さしあげます

海禅寺新聞で何度かご紹介している地域包括ケアに取り組む認定NPO法人「新田の風」が作成しているエンディングノート『人生のしまい方』を、ご希望の方に差し上げます。ただし在庫の都合で10冊限定です。先着順とさせていただきます。在庫がなくなりましたらお申し出ください。在庫がなくなりましたらお申し出ください。在庫がなくなりましたらお申し出ください。



・バインダータイプのエンディングノートです。そのため、内容をアレンジして自由に活用する幅を広げられます。
・認知症になった時、関わってくださる人にあなたらしさを知らせるための小冊子付き。
・終末期医療について記入する「いのちの選択」カード2枚付き。(同カードは海禅寺でも無料で差し上げます)

発行元 海禅寺